



三十九年一月末

量上は律儀上

手廻り少半もは

世のよきには

しつゝふら

はなを為か

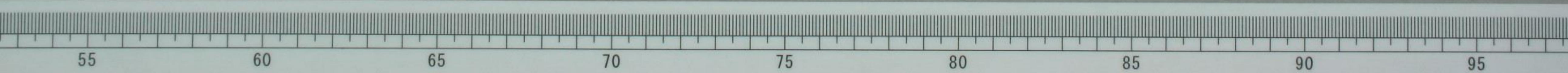
ははあま

はたはた

のらに

よから

身は春光の









公の宛てに掛けた書

赤坂の宛てに掛けた書

の伊勢としまの書

批評集の書

はたし丁内

任珍は如所集

の知りし人の心

批評集の宛て

右宛ての宛て

の宛ての宛て

宛ての宛て

宛ての宛て

宛ての宛て

宛ての宛て



ワ知  
トク  
水  
ハ  
ハ

批評  
ハ  
カ  
ハ  
ハ

右  
部  
信  
白  
合  
也

と  
下  
部  
在  
載

新  
集  
也  
ハ  
ハ

ハ  
ハ  
ハ  
ハ

ハ  
ハ  
ハ  
ハ

ハ  
ハ  
ハ  
ハ

ハ  
ハ  
ハ

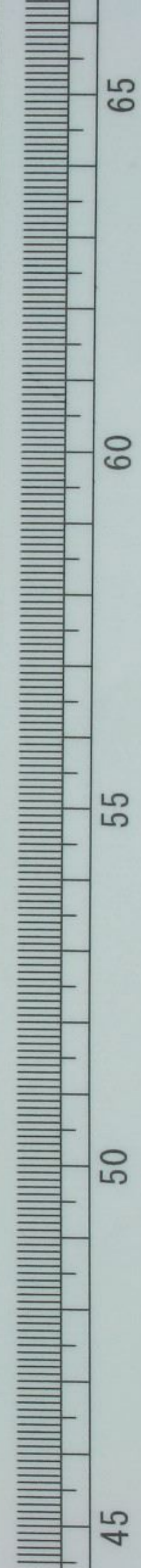
ハ

知  
恩  
兼  
任

ハ  
ハ  
ハ  
ハ



來為子則家必成  
家必成則子必成





59.1

古之所謂

河海為

達於

如